

公共施設マネジメント調査特別委員会会議録(要点筆記)

令和 6年2月16日(金)

午後 3時05分 開会

○鈴木幸彦委員長

ただいまから、公共施設マネジメント調査特別委員会を開会します。

協議第1、調査事項についてを議題とします。

(1)「県外視察の報告について」を行います。委員の皆さまと山田企画部長からご提出いただいた視察報告書について、補足説明をお願いします。また、委員会報告書を作成するにあたり、委員会からの提言に対するご意見などありましたら順にお聞かせください。

○山本裕介副委員長

佐倉市においては、ファシリティマネジメント策定時に、今後どれだけの予算が必要になり、どれだけの予算が不足するのかを綿密に洗い出しができていました。また、専門部署が中心となり部署を跨いだ横断的な「経営」がされていたことが印象的でした。半田市においても、ファシリティマネジメントする専門部署を設置することで、意思決定のスピードアップが期待できると思います。

○小出義一委員

公共施設マネジメントは維持管理コストの縮減を中心に行うなど、費用を効果的に使う視点が大切だと思いました。

○有留麻由委員

施設を複合化する際は、ある程度、先のことを見越してどのようにでも使えるように、柔軟性を持たせる必要があると思いました。志木市で視察した学校施設については、将来的に子どもの増減に合わせて、教室をどのように変えていくのか、初めからビジョンを持っていた点がよいと思いました。

○國弘秀之委員

公共施設の複合化を検討する際は、住民への行政サービスを低下させることなく、機能の向上や質の向上、半田市の魅力向上に繋げていく必要があると思いました。

○山田清一委員

志木市からの視察において、他公共施設と複合化された小学校は、「地域の協力のもとに、地域で子どもたちを守り育てる」、「子どもの安全性も複合施設となれば、大人の目が多くなり小学校単独よりも高まる」ことを強く感じました。

○芳金秀展委員

佐倉市においては、公共施設マネジメントシステムを導入することで各施設のデータの一元管理が可能になっていました。半田市においても、各部署で管理されている施設情報の見える化と全庁でのデータの一元管理をするため、公共施設マネジメントシステムの導入が必要だと思いました。

○新美保博委員

今回の視察テーマについて、佐倉市も志木市も、随分早くから着目され、それぞれの地域に合った創意工夫・知恵を出し、ニーズにあったベストな取組みがされていました。加えて、ニーズに合った取組みで、地域の人たちを巻き込んで事業展開をしたことが成功事例の大きな要因だと思いました。

○加藤美幸委員

公共施設に無駄遣いや贅沢を市民は望んではいないと思いますが、質素儉約しすぎて市民生活が不便になることは、まちの魅力低下に繋がると思いました。

○竹内功治委員

施設を統合することにより、一施設への利用者数が増加すると見込まれるため、駐車場などのスペースを広く確保する必要があると思いました。

○山田幸企画部長

学校施設と複合化する場合は、鍵の管理やセキュリティに関し、民間サービスなどを利用し、施設管理に関して学校職員が責任追及される可能性を軽減させることを検討すべきと思いました。

○鈴木幸彦委員長

皆さまからの意見に加えて、公共施設複合化については、市民の利便性や満足度を最優先に考える必要があるため、複合施設完成まで市民を交えた定期的協議が必要だと感じました。

ご意見ありがとうございました。委員会報告につきましては、皆さまからいただいたご意見を基に、正副委員長案を作らせていただきますが、よろしいでしょうか。

【「異議なし」との声あり】

○鈴木幸彦委員長

委員会報告案につきましては、2月27日(火)ごろにメールで皆さまにお送りし、次回委員会でご協議いただきたいと思います。委員会報告書は、3月下旬までにほぼ完成させるスケジュールで進めさせていただければと思います。

この件について、ご意見などはありますか。

【「なし」との声あり】

○鈴木幸彦委員長

ないようですので、この件については終わります。

では、次に(2)今後の委員会についてを行います。次回の委員会は3月1日(金)午後1時15分から行い、次々回は3月28日(木)午前10時から行いますが、ご予定よろしいでしょうか。

【「はい」との声あり】

○鈴木幸彦委員長

その他、何かある方はいますか。

【「なし」との声あり。】

○鈴木幸彦委員長

ないようですので、以上で、公共施設マネジメント調査特別委員会を閉会します。

午後 3時35分 閉会